

第7回「山の日」全国大会おきなわ2023 一般参加者の募集について

「山の日」全国大会とは

- 全国大会は、国民の祝日「山の日」(8月11日)の趣旨である「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」ことの浸透を図る目的で、毎年、全国持ち回りで開催されています。
- 第7回「山の日」全国大会は世界遺産登録地である「沖縄島北部」、「西表島」で開催します。

大会の行事概要

- 1 日時: 令和5年8月10日(木)、11日(金)
- 2 場所: 国頭村、大宜味村、東村、竹富町
- 3 内容: ①歓迎レセプション(10日、招待者のみ)
②記念式典・記念行事(11日、**参加者募集**)
③トレイルウォーク(10・11日、**参加者募集**)
④歓迎フェスティバル(11日、申込不要)
- 4 招待者: 環境大臣、林野庁長官、国会議員等
- 5 目標: 大会を通じた集客 約5,000人

申込期間

6月9日(金)～6月30日(金)

※大会ホームページからオンラインでお申込み(「沖縄山の日」で検索)

※申込みの結果(参加の可否)は、後日メールでご連絡

沖縄山の日



【お問い合わせ】
第7回「山の日」全国大会実行委員会
事務局: 沖縄県環境部環境再生課

「記念式典・記念行事」



日時：令和5年8月11日(金・祝日) 8:30～12:00
 会場：大宜味村立大宜味小中学校体育館
 募集人数：470名(予定) ※応募多数の場合は抽選

申込み
必要

参加料
無料

記念式典 8:45～

- ・オープニング映像
- ・演舞「あけもどろのサバクイ」
- ・合唱「山はふるさと」
- ・メインアトラクション
- ・リレーセレモニー など

✓ 平田大一氏による演出舞台



記念行事 11:00～

✓ 多彩なゲストが出演

- ・HYオープニングライブ
- ・県内学生の取組発表
- ・演奏/池田 卓
- ・ゲストによるトークセッション
- ・おきなわ百低山フォトグランプリ など



12:30～17:00

申込み
必要

参加料
無料

式典参加者オプションツアー (トレイルウォーク)

※記念式典・行事終了後に会場から出発
 ※応募多数の場合は抽選

8/11 オプションツアー(参加無料)		実施場所	募集人数
1	EVバス乗車 やんばる大国林道見学ツアー	国頭村	15名
2	塩屋富士ウォーキングコース	大宜味村	20名
3	福地ダム見学と慶佐次マングローブ散策コース	東村	20名
4	大石林山自由散策コース(各自移動)	国頭村	364名

「トレイルウォーク」

トレッキング
+
歴史・文化
を体験

秘境散策やカヌー体験など、沖縄の山と自然を体感するトレッキングに加え、木材や食材等の様々な恵みをもたらしてきた山と地域との歴史や文化にも触れることができるプログラム

申込み
必要

参加料
有料

開催日：令和5年8月10日（木） 参加料：2,500円 ※先着順

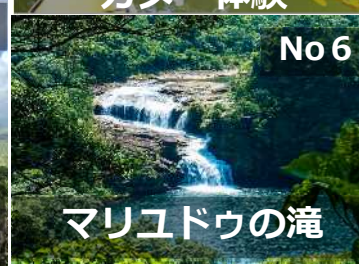
トレイルウォーク・ツアー名

先着順

実施場所

募集人数

1	大石林山トレッキングと森林セラピーツアー	国頭村	20名
2	電気バス乗車によるやんばる森林巡りと比地大滝トレッキング	国頭村	11名
3	山と水の生活博物館見学と秘境トレッキングコース	東村	11名
4	福地ダム自然観察船と慶佐次マングローブ林散策コース	東村	20名
5	ネクマチチ岳とボウジムイトレイルウォーク	大宜味村	20名
6	（西表島）浦内川をのぼるトレイルウォーク	竹富町	19名



「歓迎フェスティバル」

来場自由の賑わいイベント

日時：令和5年8月11日（金・祝日）10:00～17:00

会場：東村村民の森つつじエコパーク

概要：お笑い芸人トークショー、親子向け体験企画など


申込み
不要


参加料
無料


FIBAバスケットボールワールドカップ2023 事前キャンプ実施国について



今年の8月25日から沖縄アリーナで開催される「FIBAバスケットボールワールドカップ2023」を契機として、沖縄に住む子ども達とトップアスリートとの交流を目的に事前キャンプの受け入れを実施します。

 受入国: ①オーストラリア(沖縄市)
②ジョージア(沖縄市)
③カーボベルデ共和国(与那原町)

 受入期間: ①オーストラリア(8月21日～)
②ジョージア(8月18日～)
③カーボベルデ共和国(8月19日～)

 交流内容: バスケットボールクリニックや公開練習、サイン会、練習試合の無料招待等



【問い合わせ先】
スポーツ振興課 FBWC2023開催支援室
098-917-2864

令和4年度沖縄子ども調査
高校生調査 結果報告

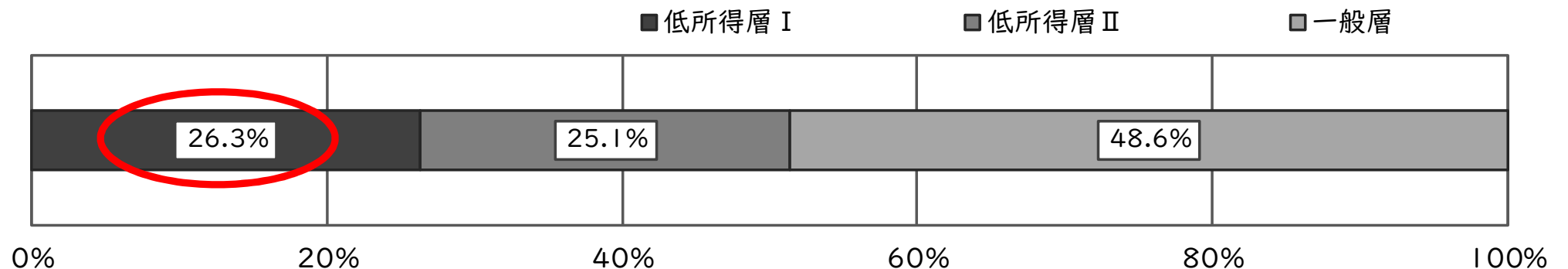
困窮世帯の割合(1)

経済状況による影響を分析するため、世帯の人数と世帯収入（税金や社会保険料の額を差し引いた手取り収入）から等価可処分所得（世帯の可処分所得（手取り収入）を世帯人数の平方根で割った額）を算出し、世帯の困窮程度を3つの区分に分類しています。

分類にあたっては、厚生労働省の「2019年国民生活基礎調査」における貧困線（127万円）を基準にしています。あわせて、貧困線以上ではあるものの、周辺の世界帯の状況を把握することを目的に、貧困線の1.5倍の収入にあたる190.5万円でも区分を設けています。

この区分を基にみると、貧困線以下となる低所得層Ⅰは、26.3%となっています。

図9 【保護者】等価可処分所得による分類(n=2910)



困窮世帯の割合②

図11は経年比較をしたものです。2019年調査までは、困窮層と非困窮層の2区分で分析をしていたため、それに合わせるかたちで2022年も整理しています。

困窮層の割合は、2016年から2019年にかけて29.3%から20.4%へと8.9ポイント減少しましたが、2019年から2022年にかけては5.9ポイント増加しています。

なお、2016年沖縄県調査、2019年沖縄県調査も国民生活基礎調査の貧困線を参考に基準を設けていますが、2016年はさらに消費者物価指数をかけて127万円を基準に、2019年は122万円を基準にしています。

図11 【保護者／経年比較】等価可処分所得による分類

